

病害虫発生予察特殊報  
第 1 号

昭和58年3月1日  
東京都農業試験場

小笠原に発生した新害虫ミナミキイロアザミウマについて

発生地域

小笠原諸島の父島及び母島

発生状況

昭和57年12月小笠原村母島の施設キュウリにアザミウマによる被害が発生した。本虫を農林水産省農技研昆虫分類研究室に同定依頼したところミナミキイロアザミウマであることが判明した。現在、本種は露地栽培のジャガイモ、カボチャに発生しており、発生面積は母島135アール、父島50アール。発生区域は農業区域にわたっている。さらに無加温パイプハウス内のキュウリ、ピーマン、シシトウガラシ、ナマ、オクラなどでも被害がいちじるしく、マイカ(苗)、メロン(苗)、インゲン、ダイズでは軽かった。また、発生施設周辺の雑草のテルミノイヌホオズキ、スベリヒユ、イマビユ、カッコアザミ、ヒメジオン、オニタビラコにも寄生がみられた。

虫の特徴

雌成虫は体長1.2~1.3mm、体色は鮮明な黄褐色、翅をたたみ静止すると背面の中央部に縦に直線状の黒い線がみえる。雄成虫はやや小型で体長1.0mm内外である。翅は羽毛状で自由にとぶ。卵は白色。幼虫は紡錘形ではじめ淡黄色、のち黄色。

全国の発生動向

本種は原産地が東南アジアで、わが国では昭和53年宮崎県の施設ピーマンに発生以来、年々拡大し、現在九州全県を含め、1都16県に発生し、被害は拡大しつつある。本種は冬、露地で越冬できるかどうか不明である。しかし、施設での越冬は充分可能なので今後本種のまん延に充分警戒する必要がある。

対策

ほ場周辺の雑草の除去、収穫後の被害作物の焼却を行ない、育苗は寒冷紗被覆、ミルパーポリマルチ栽培を行う。

殺虫剤はスプラサイド1000倍液、BPMC乳剤(バッサ)の1500~2000倍液を散布する。